

## クロマグロ類に関する声明（仮訳）

当社は、経済価値、社会価値、環境価値の三価値同時実現による持続的成長に挑戦しており、自然資源の枯渇の防止を含む、自然環境の保全及び生産現場に於ける人権への配慮は、当社にとって重要な課題と認識しています。当社は、食品産業グループにおいて消費者の毎日の生活を支える食関連の商品を扱っており、海外の水産物生産者にとって主要な需要者であると同時に、日本市場を中心とする世界の水産物の主要な供給者の一社として、上記課題を解決する責任の範囲が国際的であることを理解しています。更に、水産物の養殖、買付、加工、卸売に関わる事業を行っており、漁業者や養殖業者と、消費者に商品を供給する小売業者を繋ぐサプライチェーンの重要な一部分を担っています。

当社及び当社事業会社である東洋冷蔵㈱(以下「当社グループ」)は、長期的視野に立ったビジネスの継続性と次世代への食品の供給という両側面から、科学的根拠に則り、クロマグロ類(大西洋・太平洋クロマグロ、ミナミマグロ)を持続可能な形で調達します。当社グループが取り扱うクロマグロ類は、以下記載の調達原則に則り取り組むこととします。

### 1. クロマグロ類の持続可能な調達

#### 1-1. 天然クロマグロ類に係る持続可能な調達原則

当社グループは天然クロマグロ類の持続的な調達を目的に、以下の方針を遵守します。

- ✓ 世界水産物持続可能性イニシアチブ(Global Sustainable Seafood Initiative、以下「GSSI」)に認定された認証プログラムが設定する、クロマグロ類に関する持続可能な漁業の基準の浸透と発展のために取り組むこと
- ✓ GSSI に認定された認証(以下「GSSI 基準認証」)の取得を目指す企業及び生産者が、科学的かつ客観的な計画に基づいて活動ができるよう積極的に支援すること
- ✓ 国際連合食糧農業機関が定義する IUU(違法、無報告、無規制)漁業により調達されたクロマグロ類の取り扱いを排除するために、科学的根拠に基づく海洋生態系の保全及び責任ある漁業管理を支持し、その遵守状況の調達時確認を継続すること
- ✓ 人権、労働基本権の侵害又はこれに抵触する方法で調達されたクロマグロ類は取り扱わず、そのために必要な具体的かつ有効な措置を講ずること

#### 1-2. 養殖／蓄養クロマグロ類に係る持続可能な調達原則

当社グループは養殖／蓄養クロマグロ類の持続的な調達を目的に、以下の方針を遵守します。

- ✓ GSSI に認定された認証プログラムが設定する、クロマグロ類に関する基準が策定されること

- を支持し、そのために積極的に協力すること
- ✓ GSSI 基準認証の取得を目指す養殖／蓄養業者・漁業者が、科学的かつ客観的な計画に基づいて活動ができるよう積極的に支援をすること
  - ✓ 国際連合食糧農業機関が定義する IUU (違法、無報告、無規制) 漁業により漁獲されたクロマグロ類の蓄養魚の取り扱いを排除するために、科学的根拠に基づく海洋生態系の保全及び責任ある漁業管理を支持し、その遵守状況の調達時確認を継続すること
  - ✓ 人権、労働基本権の侵害又はこれに抵触する方法で養殖／蓄養されたクロマグロ類は取り扱わず、そのために必要な具体的かつ有効な措置を講ずること

## 2. 2017 年声明に於けるアクションプランの成果

アクションプラン	実施状況と成果
「第三者機関により、各漁業の海洋管理協議会 (Marine Stewardship Council)、以下「MSC」) 基準への遵守状況をアセスメントします (漁業改善プロジェクト (Fishery Improvement Projects、「FIPs」) への取り組みを開始する為のギャップ分析)。」	当社グループの主要な大西洋クロマグロ供給者であるクロアチアの巻網漁業に関し、MSC の基準を用いたギャップアセスメントを行い、現状での課題を明らかにした上で、クロアチア関係者と共有しました。また、将来的な MSC 取得の可能性についても継続的な対話を行いました。
「2017 年度末までに、当社が取扱う全てのクロマグロから IUU 漁業を排除することを目的とするトレーサビリティシステムを構築します。」	当社グループが取扱う全てのクロマグロについて、漁獲から輸入までのトレーサビリティ情報が管理できるシステムを構築し、現在当社グループが取扱うクロマグロ類は 100% 当システム経由で管理できるようになりました。又、当社グループが取引を行っているサプライヤーとは対話を通じ、IUU 漁業で調達された漁獲物でないことを直接確認しています。
「クロマグロについて、持続可能な養殖の基準の策定を検討する関係者との対話に継続的に参画します。」	WWF 主催の水産養殖管理協議会 (Aquaculture Stewardship Council、以下「ASC」) 関連のラウンドテーブル等にも参画しており、関係者との対話を継続しています。また、国内外の NGO などからの問い合わせや対話依頼を積極的に受け入れています。
「2018 年度中に実行することを目標に、養殖業改善プロジェクト (Aquaculture Improvement Projects、「AIPs」) に向けたベストマネジメントプラクティス(BMPs)を策定	マルチステークホルダー参加の上で開催された検討会に継続して出席しましたが、当会で ASC 基準の合意がなされなかったため、当社グループとして BMP 策定には至りません

<p>します。」</p>	<p>でした。今後も多様なステークホルダー間での議論を通じた養殖／蓄養クロマグロ類に対する ASC 基準の策定状況を踏まえ、取り組みを継続していく方針です。</p>
--------------	--

### 3. アクションプラン 2021

当社グループは、2017 年のアクションプランの成果を踏まえ、新たに 2021 年度より、以下のアクションプランを推進します。

- ✓ GSSI 基準認証を取得したクロマグロのプロモーションを図り、認証クロマグロの国内外市場への浸透を深めていきます。2030 年度までに当社グループが取り扱うクロマグロ類のうち、少なくとも 30%を GSSI 基準認証とするべく、関係者に働きかけます。
- ✓ 養殖、蓄養を含む持続可能なクロマグロの生産認証基準策定を検討する関係者との対話についても、引き続き関係者に働きかけを行い、会議等へ積極的に参画していきます。
- ✓ オーストラリアで蓄養事業の原魚として利用されているミナミマグロの巻網漁業について、MSC 取得に向けた活動に賛同し、これを支援します。

### 4. ステークホルダーエンゲージメント

当社グループは、クロマグロ類の調達に関連する問題は複雑且つ日々進化するものと認識しています。関係者との継続的な対話を通じ、透明性をもって事業を遂行すると共に、当社グループと共にクロマグロ類の持続可能な調達を目指す関係者との協働を推進します。

以 上